

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	前受金	300,000	役務収益	500,000
	売掛金	200,000		
	役務原価	350,000	仕掛品	250,000
			買掛金	100,000
2	建物	32,000,000	営業外支払手形	39,600,000
	構築物	4,000,000		
	支払利息	3,600,000		
3	仕入	2,500,000	買掛金	1,000,000
	備品	2,000,000	当座預金	3,000,000
			負ののれん発生益	500,000
4	現金	216,000	売上	600,000
	支払手数料	16,000	仮受消費税	48,000
	クレジット売掛金	416,000		
5	資本金	2,000,000	その他資本剰余金	4,000,000
	資本準備金	2,000,000		
	利益準備金	3,500,000	繰越利益剰余金	3,500,000

・解説

1. 役務収益・役務原価に関する問題です。

本問は【役務収益に関する仕訳】と【役務原価に関する仕訳】に分けて考えましょう。

■役務収益に関する仕訳

まず、問題文の「顧客に対するサービス提供が完了したため、契約額 ¥ 500,000 を収益に計上した」から、貸方に役務収益 500,000 円を計上すべきことが分かります。

また、問題文の「この収益のうち、¥ 300,000 は以前に受け取っており」「残額の ¥ 200,000 は当月末に受け取る予定」から、以前に前受金 300,000 円を計上していたことが分かるので、これを役務収益に振り替えるとともに、残額の 200,000 円を売掛金の増加として処理します。

☆参考・前受金計上時の仕訳

(借) 現金など 300,000 / (貸) 前受金 300,000

★解答①

(借) 前受金 300,000 / (貸) 役務収益 500,000

(借) 売掛金 200,000

■ 役務原価に関する仕訳

問題文に「仕掛品に計上されていた諸費用 ¥ 250,000 と追加で発生した外注費 ¥ 100,000 (支払日は翌月末)との合計額を原価に計上した」とあるので、すでに計上している仕掛品を役務原価に振り替えるとともに、追加で発生した外注費を**買掛金**で処理します。未払金で処理しないように気をつけましょう。

- ・ 商品販売やサービス提供にかかる未払債務：買掛金
- ・ 商品販売やサービス提供以外 (ex.有価証券や固定資産の取得など) にかかる未払債務：未払金

☆参考・仕掛品計上時の仕訳

(借) 仕掛品 250,000 / (貸) 諸費用 250,000

★解答②

(借) 役務原価 350,000 / (貸) 仕掛品 250,000
(貸) 買掛金 100,000

以上、解答①②をまとめると解答仕訳になります。

役務収益・役務原価に関する問題は、第 145 回の問 4でも出題されています。あわせてご確認ください。

2. 固定資産の取得に関する問題です。

固定資産を割賦契約で購入した場合、現金販売価額と支払額合計との差額を**前払費用・長期前払費用 (資産)**、**支払利息 (費用)**などで処理します。

本問は、問題文に「**約束手形に含まれる利息相当額については費用勘定で処理すること**」という一文があるので、差額の 3,600,000 円は**支払利息**で処理します。

現金購入価額：32,000,000 円 + 4,000,000 円 = 36,000,000 円

支払額合計：@1,100,000 円 × 36 枚 = 39,600,000 円

差額：39,600,000 円 - 36,000,000 円 = **3,600,000 円**

また、代金は手形を振り出して支払っているので**営業外支払手形**で処理します。

- ・ 商品を仕入れたさいに振り出す手形：支払手形
- ・ 商品以外のモノ (ex.固定資産など) を購入したさいに振り出す手形：営業外支払手形

固定資産の取得に関する問題は、第 101 回の問 3や第 118 回の問 5、第 120 回の問 5、第 125 回の問 4、第 128 回の問 1、第 131 回の問 3、第 139 回の問 1、第 139 回の問 5、第 141 回の問 2、第 145 回の問 1、第 147 回の問 1でも出題されているので、あわせてご確認ください。

3. 企業買収に関する問題です。

譲り受けた資産・負債をそのまま計上するとともに、受け入れた純資産と事業譲渡の対価との差額を**のれん**または**負ののれん発生益**で処理します。

- ・受け入れた純資産<事業譲渡の対価：借方にのれん（資産）を計上
- ・受け入れた純資産>事業譲渡の対価：貸方に負ののれん発生益（収益）を計上

本問の場合、受け入れた純資産が 3,500,000 円 (=2,500,000 円+2,000,000 円-1,000,000 円)、譲渡対価が 3,000,000 円なので、差額の 500,000 円を負ののれん発生益で処理します。

なお、受け入れた商品は「仕入」ではなく「商品」や「繰越商品」で処理するするケースもあります。問題に列挙されている勘定科目を使って解答しましょう。

企業買収に関する問題は、第 127 回の問 3 でも出題されています。あわせてご確認ください。

4. クレジット売掛金・消費税に関する問題です。

まず、問題文の「商品を ¥ 648,000（消費税込み）で販売し」「消費税の税率は 8%とし、税抜方式で処理する」から、売上高 600,000 円および仮受消費税 48,000 円を貸方に計上します。

$$\text{売上高（税抜き）：} 648,000 \text{ 円} \div 1.08 = 600,000 \text{ 円}$$

$$\text{仮受消費税：} 648,000 \text{ 円} - 600,000 \text{ 円} = 48,000 \text{ 円}$$

★ステップ 1

	(貸) 売	上	600,000
	(貸) 仮受消費税		48,000

また、問題文の「このうち ¥ 216,000（消費税込み）を現金で受け取り」から、現金 216,000 円を借方に計上します。ここまでは特に問題ないと思います。

★ステップ 2

(借) 現	金 216,000	/	(貸) 売	上 600,000
			(貸) 仮受消費税	48,000

さらに、信販会社へのクレジット手数料を計算しますが、問題文に「クレジット販売代金の 4%」「クレジット手数料には消費税は課税されない」とあるので、売上高（税抜き）から現金売上代金（税抜き）を差し引いて求めたクレジット販売代金に 4%を乗じて手数料の金額を求めましょう。

$$\text{売上高（税抜き）：} 648,000 \text{ 円} \div 1.08 = 600,000 \text{ 円}$$

$$\text{現金売上代金（税抜き）：} 216,000 \text{ 円} \div 1.08 = 200,000 \text{ 円}$$

$$\text{クレジット販売代金：} 600,000 \text{ 円} - 200,000 \text{ 円} = 400,000 \text{ 円}$$

$$\text{クレジット手数料：} 400,000 \text{ 円} \times 4\% = 16,000 \text{ 円}$$

★ステップ 3

(借) 現	金 216,000	/	(貸) 売	上 600,000
(借) 支払手数料	16,000	/	(貸) 仮受消費税	48,000

最後に、クレジット売掛金の金額を貸借差額で計算します。

★ステップ4 (解答仕訳)

(借) 現 金 216,000 / (貸) 売 上 600,000
(借) 支 払 手 数 料 16,000 / (貸) 仮 受 消 費 税 48,000
(借) クレジット売掛金 416,000

本問は、手数料・消費税の取り扱いがややこしいため、初見で正解にたどり着くのは至難の業です。余裕のない方は後回しにしても構いません。

■消費税の処理方法が税込方式の場合は？

消費税分 48,000 円を売上に含めて処理します。参考までに仕訳をご確認ください。

☆参考・税込方式の場合の解答仕訳

(借) 現 金 216,000 / (貸) 売 上 648,000
(借) 支 払 手 数 料 16,000
(借) クレジット売掛金 416,000

クレジット売掛金に関する問題は、第 144 回の問 3や第 146 回の問 1、第 147 回の問 3でも出題されているので、こちらもあわせてご確認ください。

消費税に関する問題は、第 104 回の問 3や第 110 回の問 2、第 117 回の問 3、第 124 回の問 3、第 132 回の問 3、第 138 回の問 5、第 141 回の問 4、第 142 回の問 1、第 143 回の問 5、第 144 回の問 3、第 146 回の問 5、第 147 回の問 3でも出題されているので、あわせてご確認ください。

5. 株主資本の計数変動に関する問題です。

本問はまず、問題文に「利益準備金の取崩額は、繰越利益剰余金とした」とあるので、利益準備金を繰越利益剰余金に振り替えます。

★解答①

(借) 利 益 準 備 金 3,500,000 / (貸) 繰 越 利 益 剰 余 金 3,500,000

次に、資本金・資本準備金の振り替え先を考えましょう。

資本金・資本準備金は、同じ資本剰余金に分類されるその他資本剰余金はもちろん、「繰越利益剰余金がマイナスの場合」という条件を満たせば（その他資本剰余金を経由して）繰越利益剰余金に振り替えることもできます。

☆参考仕訳

(借) 資 本 金 2,000,000 / (貸) その他資本剰余金 4,000,000
(借) 資 本 準 備 金 2,000,000
(借) その他資本剰余金 4,000,000 / (貸) 繰 越 利 益 剰 余 金 4,000,000

ただ、本問の場合、利益準備金を繰越利益剰余金に振り替えた結果、繰越利益剰余金は貸方残（＝プラスの状態）になるため、資本金・資本準備金を繰越利益剰余金に振り替えることはできません。よって、資本金と資本準備金は**その他資本剰余金**に振り替えます。

★解答②

(借) 資 本 金 2,000,000 / (貸) その他資本剰余金 4,000,000

(借) 資 本 準 備 金 2,000,000

以上、解答①②をまとめると解答仕訳になります。

株主資本の計数変動に関する問題は、第 148 回の問 3でも出題されています。あわせてご確認ください。